

昌壽院

## おてらだより

第13号

曹洞宗 昌壽院  
〒621-0814  
亀岡市三宅町95  
TEL 0771-22-2350  
otera@shojuin.jp

## 新春万福 福寿長久

明けましておめでとうございます。

檀信徒の皆様におかれましてはご健勝にて新しい年を迎えることを心よりお慶び申し上げます。旧年中は、多くのお力添えを頂戴し感謝申し上げます。

本年も何卒よろしくお願ひいたします。

令和八年 正月

昌壽院 住職 大井龍樹 拝  
東堂 大井美樹 拝

## 手綱を軽やかにあやつる

たづな

本年はうま年。馬は古来より、人々の暮らしを助けてくれる身近な存在でした。

昔の人は、ただ速く走る馬よりも、「よく止まる馬」を信頼したそうです。止まるべき時に止まらない馬は、自分も、そして人も危うくしてしまうからです。

禅に「意馬心猿（いばしんえん）」という言葉があります。

意は馬のように走り回り、心は猿のように跳ね回る——私たち人間の心の落ち着かないさまを言い表した言葉です。

仏教では、心は放つておくと、喜びや不安、怒りや欲に引かれ、勝手気ままに走り出し、苦しみの原因となると考えます。

ですから、心の手綱を取り、よく調えることが大切です。心を力で押さえつけるのではなく、心という「馬」をよく知り、よく制御する。走るべき時には走り、止まるべき時には止まる——その加減を身につけることが、日々の仏道修行であります。

馬は頭がよく、信頼関係があれば、人に応えてくれます。人が馬の呼吸を感じ取り、互いを信じれば、遠くまで行くことができます。私たちもまた、自分の心を、賢い相棒として仲よく付き合っていく。静かに息を整え、心の手綱を握り直し、自分をみつめる時間を大切にしたいと思います。

皆さまにとつて、「馬」と仲よく歩める一年となることを願つております。（住職 合掌）

# 子ども禅の集い 大本山永平寺一泊一日

昨夏、令和七年七月二十三～二十四日に、京都府宗務所主催の「子ども禅の集い」が開催されました。

今年は、昌寿院から五名の子どもたちが参加し、住職も一緒に参加しました。

スキージャム勝山でキャンドルづくりを体験した後、大本山永平寺へ向かいました。

修行道場の張りつめた雰囲気の中、坐禅や写経、そして和尚さんのお話を聞かせていただき、また慣れない精進料理に苦心しながらも食事への感謝の心を学びました。

早朝四時に起床し、朝のおつとめ。大きな本堂に響く修行僧の読経の声が心に響きました。その後、恐竜博物館へ。汗だくになりました。

いつもと違う環境に、すこし緊張しながらも、とても良い時間を過ごすことができたと思います。



## 京丹波町・太虛寺 普山式 「弁事」をつとめました

令和七年十月十九日に、京丹波町の太虛寺で當まれた普山結制にて、次男・至道が「弁事（べんじ）」の役をいただきました。

弁事は、結制修行の第一座である首座和尚を支える役で、法戰式では修行のテーマに関する「頌（じゅ）」を読み上げたのち、問答の口火を切ります。

得度前後の子どもがつとめることが多いとはい、小学一年生の次男にとつては大役です。数か月前から頌を暗唱し、法衣での立ち居振る舞いにも少しずつ慣れながら、本番に臨みました。頭をつるつるに丸め、法衣姿で立つ姿はまるで「一休さん」のよう。唯一の小学生ということもあり、温かく見守つていただきました。

当日は大勢の前で、やや緊張した様子でしたが、気合いの入った大きな声でつとめることができました。

当日は大勢の前で、やや緊張した様子でしたが、気合いの入った大きな声でつとめることができました。



本年の年回法事は次の通りですので、ご確認ください。ご命日が近づきましたら、お寺からもお知らせを送っています。

日程をご検討いただき、ご連絡ください。

### 令和八年 昌寿院 年回法事

【年回名】【お亡くなりになつた年】

壹周忌	令和7年	(2025年)
参回忌	令和6年	(2024年)
七回忌	令和2年	(2020年)
十三回忌	平成26年	(2014年)
十七回忌	平成22年	(2010年)
二十五回忌	平成14年	(2002年)
三十三回忌	平成6年	(1994年)
五十回忌	昭和52年	(1977年)

### 仏事・豆知識メモ

曹洞宗の焼香は正式には2回行います。

一回目 額のあたりで押し頂いて焼香  
二回目 そのまま焚く  
(場合によつては一回)



### 梅花 御詠歌の会

毎月第3木曜日

午後1時半～3時半頃  
楽しい会です。

ぜひご一緒に！



昌寿院サイト

<https://shojuin.jp>